

8 薬麦酵母 (SS-7)の母体投与による見のアレルギー出現に及ぼす効果の検討

○堀 大蔵

嘉村 敏治 (久留米大学医学部産婦人科)

馬場 博巳 (母子免疫研究所)

【目的】近年、乳幼児のアレルギー疾患は増加傾向にあり、母体のアレルギー疾患を有した場合、出生児のアレルギー疾患の発現率が高く、その発現要因の一つに体質性が考えられている。しかし、家族にアレルギー疾患を持つ妊婦は有効な予防法がなく、各種の代替療法や食餌療法を行っているのが現状である。今回、細胞性免疫を高めるといわれているビール酵母にハーブを添加した薬麦酵母 (SS-7)を母体に投与することにより、見のアレルギー疾患が防止できるかどうか検討したので報告する。

【方法】まず、本薬剤が胎児に影響ないことを確認するためラットによる毒性試験を行ったが胎仔に異常は認められなかった。対象はSS-7投与に同意し、生後12ヶ月にアレルギー疾患の有無を確認できた686例である。妊娠20週より1日3g (A1群) ,6g (A2群) ,18g (A3)と封筒法により3群にわけ、授乳が終了するまで投与した。服用状況、副作用の有無は妊婦検診の度に確認した。アレルギー疾患の診断は小児科医、皮膚科医が行いその重症度については今回考慮しなかった。

【結果】本治験に同意した内訳は初産婦297例、経産婦389例であり、それぞれ64%、55%に母体のアレルギー疾患を有していた。また、経産婦の64%に前児がアレルギー疾患を有していた。このことは母体、前児にアレルギー疾患を有する場合、出生児に対するアレルギー疾患の関心の高いことが伺える。SS-7服用した全症例の27%に何らかのアレルギー疾患を有しておりA1,A2,A3群で有意差はなかった。母体アレルギー素因があり前児がアレルギー疾患を有する症例が147例 (68%) であり、その症例のSS-7服用後における見のアレルギー疾患発現率は42%であった。アンケート調査では97例 (53%) の方が前児に比べてよいと解答し、不変が43%であった。